

市庁舎整備特別委員会、調査終了

市庁舎整備特別委員会は統一地方選挙後の平成27年5月1日の初議会で設置されました。

計19回の委員会が開催され、3月定例会で調査の内容を取りまとめ、委員会としての結論を委員長が報告しました。

委員会の目的

平成27年3月議会で、本特別委員会の前身である「市庁舎整備検討特別委員会」は、厳しい財政状況を考慮した市庁舎建設を提言し、委員会の調査を終了しました。

しかしながら、市庁舎の整備・建設は、市民の関心が特に高いことを考慮し、市民の利便性の向上に寄与し、防災拠点としての機能を持ち、財政状況も考慮した最適な施設となるように、議会としても積極的に関わり、調査、研究を行う必要があると判断し、本委員会が設置されました。

調査の経過

本委員会では、平成28年2月9日までに19回の議論を重ねてきました。

平成27年6月議会では中間報告を行い、「ピーポート甘木周辺」が市庁舎建設の候補地として望ましいことを報告しました。

その後も執行部から市庁舎建設に係る基本構想案や市の財政見通しなどが提示され、さらには、ピーポート甘木に隣接し、福岡県が所有する甘木歴史資料館の敷地の購入について、県との交渉の経過などの報告を受け、引き続き議会としても調査、研究を行ってきました。

その結果、委員会としても本市の将来の財政状況を憂慮し、苦渋の判断を行った上で、以下の4点をまとめ、委員会からの報告としました。

①市庁舎建設候補地

平成27年6月議会で行った中間報告のとおり、「ピーポート甘木周辺」としました。

②建設用地の購入

当初執行部が提示した案では、県が所有する甘木歴史資料館の敷地を含めた1万㎡を購入予定としていました。

しかし、県と協議を進める中で、購入費用が高すぎることや、甘木歴史資料館の用地を購入し、別の場所に建て替えた場合に、現在は維持管理費の一部を補助されているものが今後はなくなる可能性があることなどが明らかになり、委員会としては、今後の財政運営を考慮した結果、甘木歴史資料館の南側用地5千㎡のみを購入すべきだという案でまとめ、執行部に提言しました。

③市庁舎の配置方法

平成17年3月に調印された合併協定書には、「庁舎配置方式は本庁・支所方式とする。」とあります。

現在は、農林商工部が朝倉支所内に配置されていたり、教育委員会や健康課、環境課なども本庁内には配置されておらず、本庁機能が分散しています。

④市庁舎建設の場所

執行部はピーポート甘木の第一駐車場を建設候補地として検討していました。しかしながら、市立図書館や卑弥呼ロマンの湯などの利用者の利便性を考え、甘木歴史資料館の南側用地に建設すべきとの意見を提言しました。



甘木歴史資料館(左奥)とピーポート甘木(右奥)(第一駐車場から撮影)

委員会の提言を受けて、執行部は、ピーポート甘木などの施設の一部を事務所として有効利用することなどで建設費用の抑制を図ることとし、市庁舎の配置方式を本庁方式集中型とすることに決定しました。

総合戦略審査特別委員会

できるか「人口減少克服」

将来にわたり活力ある地域社会実現のために

総合戦略の目的

「朝倉市総合戦略」は、「まち・ひと・しごと創生法」により策定されます。少子高齢化の進展に的確に対応することで人口減少に歯止めを掛け、地域で住みよい環境を確保して、将来にわたり活力ある社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施することを目的としています。平成27年度から平成31年度までの5年間の基本目標と目標値を定め、具体的に取り組みを進めて数値化すると共に、特徴ある朝倉市らしい取り組みがとりあげられています。

市議会は、議長を除く17人で特別委員会を設置し、審査を行いました。



地方創生に向けた朝倉市の基本的な考え方

基本目標

1. 特色を活かしたしごとができる朝倉

- 朝倉農業高校跡地を活用した農業インキュベートの推進
- フルーツなど地域資源を活かしたブランド化・特産化の推進

農業インキュベート…地域農業の活性化や雇用の増加に資するため、農業関連の起業・創業、人材育成などを図るもの。

2. 誰もが住みたい朝倉

- 福岡都市圏などへの通勤通学の利便性の向上
- CCRCの促進

CCRC…高齢者が自立生活可能なうちに地域に居住し、ケアが必要となっても医療介護を受けながら地域で生活し続ける仕組み。

3. 安心して結婚・出産・子育てができる朝倉

- 親・子・孫三世代の同居・近居への支援
- 地域の子育て環境づくり

4. 地域の個性で輝く朝倉

- 集落支援員など地域を支援する人材の育成と活用
- 空き家の利活用の推進

5. 全力で魅力を発信する朝倉

- シテイプロモーションの拡充
- 百人一首など地域資源を活かしたPRの推進

特別委員会の質疑概要

Q 安心して出産、子育てができる環境づくりがキーワードである。本市では晩婚化が進んでいるようであるが、縁結び事業以外にも踏み込んだ事業が必要ではないか。

A 平成28年度は縁結び事業については拡充する方向である。

抜本的な施策については十分検討していかなければならない。

Q 「誰もが住みたい朝倉」について、車に乗ることができなくなつた方の買い物などのために市内全域を移動しやすい公共交通への対策が必要ではないか。

A 特に高齢者が不便に感じているのは、買い物、通院であるとの指摘を受ける。既存のコミュニティバスについては利用者の意見を取り入れながら工夫・改善を行う。

また、外出が困難な方には商品をお届けするデリバリーサービスなどを民間事業者と協力しながら検討していきたい。

Q 「総合戦略」は自治体間の競争ともいえる。目立たないPRでは有効ではない。どういったメディアでPRしていくのか。

A 新聞広告が多いが、現在もさまざまなメディアを通してPRを行っている。今後はインターネットを利用し、SNSも含めて発信力を入れていかなければならない。

